

2-7 水道料金

(1) 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度

問 水道料金は、基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることをご存知ですか。

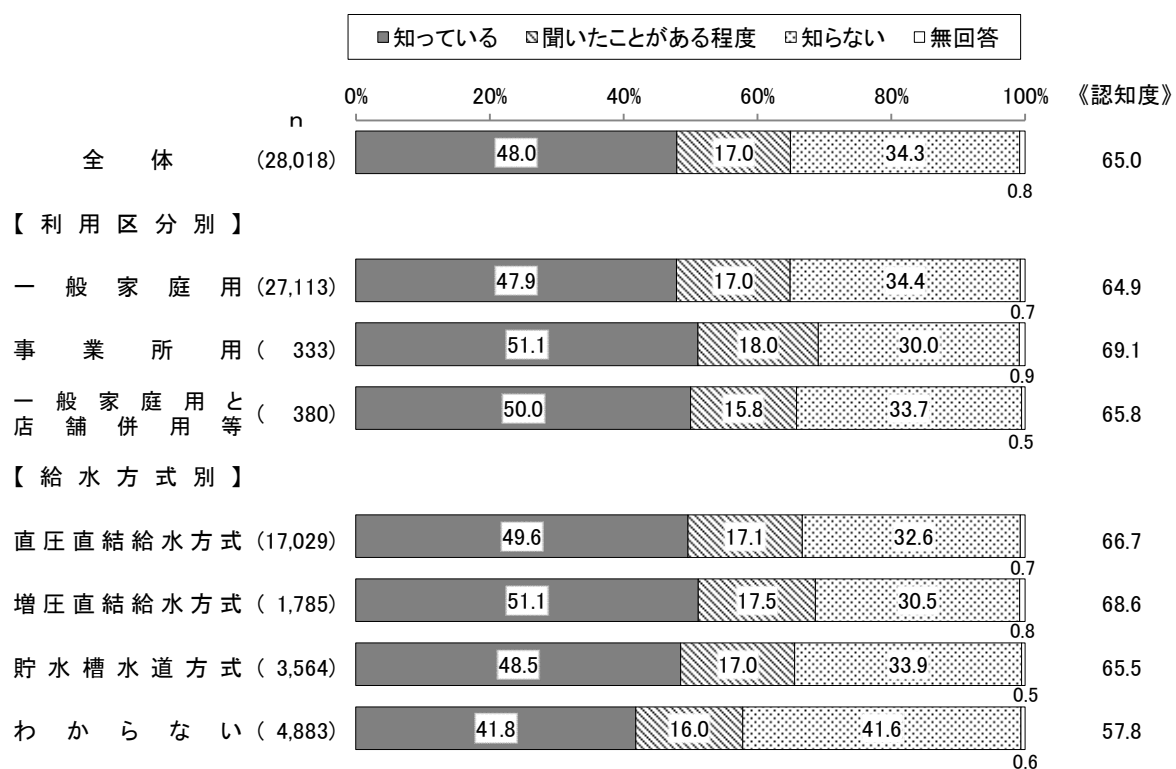
1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

〔A：問14、E：問15〕

〔調査結果〕

① 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度

（利用区分別、給水方式別）〈図表2-7-1〉



＜特徴＞

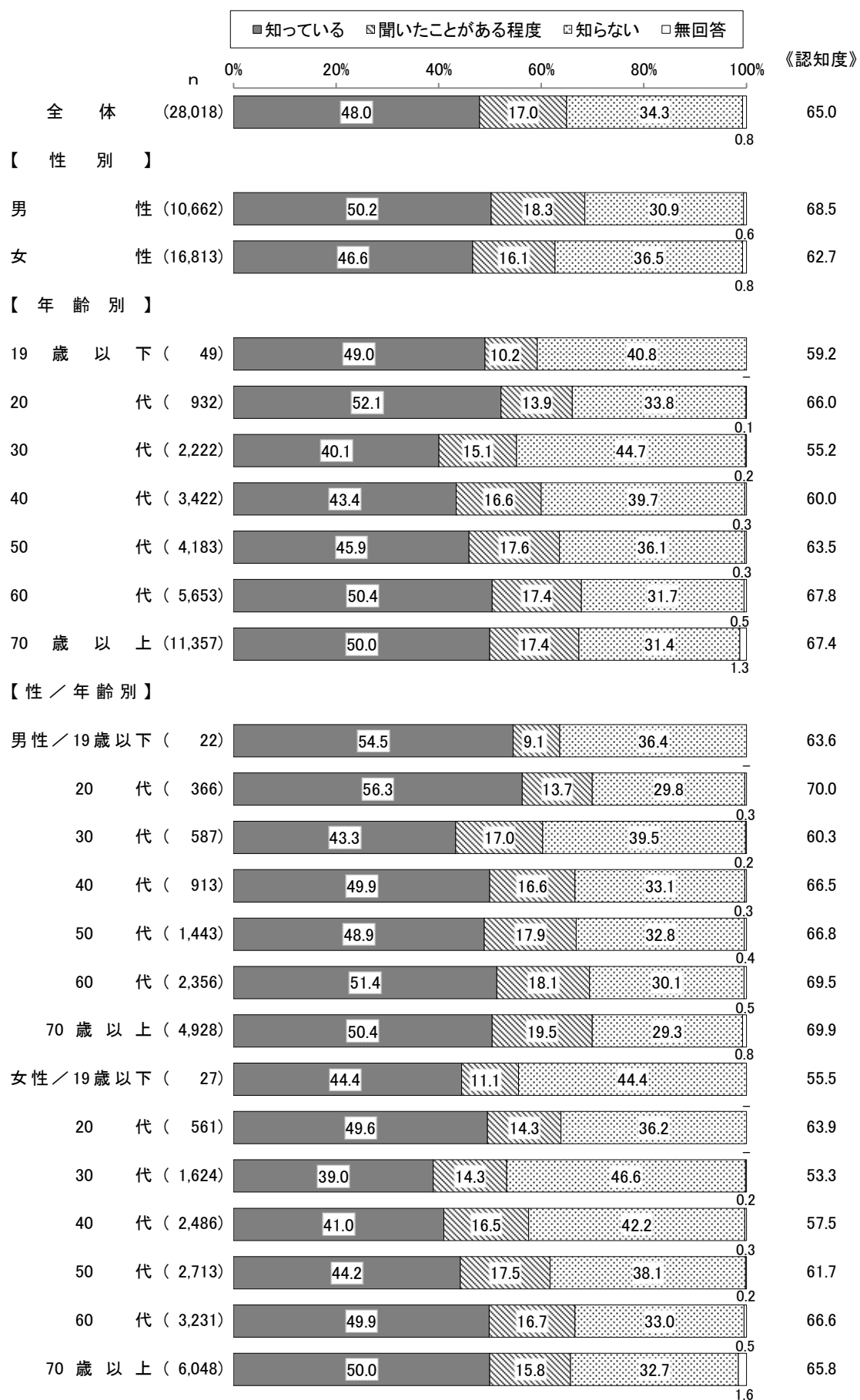
○全体でみると、「知っている」が48.0%で最も高く、「聞いたことがある程度」(17.0%)と合わせた《認知度》は65.0%となっている。一方「知らない」は34.3%となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、事業所用で69.1%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、増圧直結給水方式で68.6%と最も高くなっている。

② 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度（属性別）

〈図表２－７－２〉

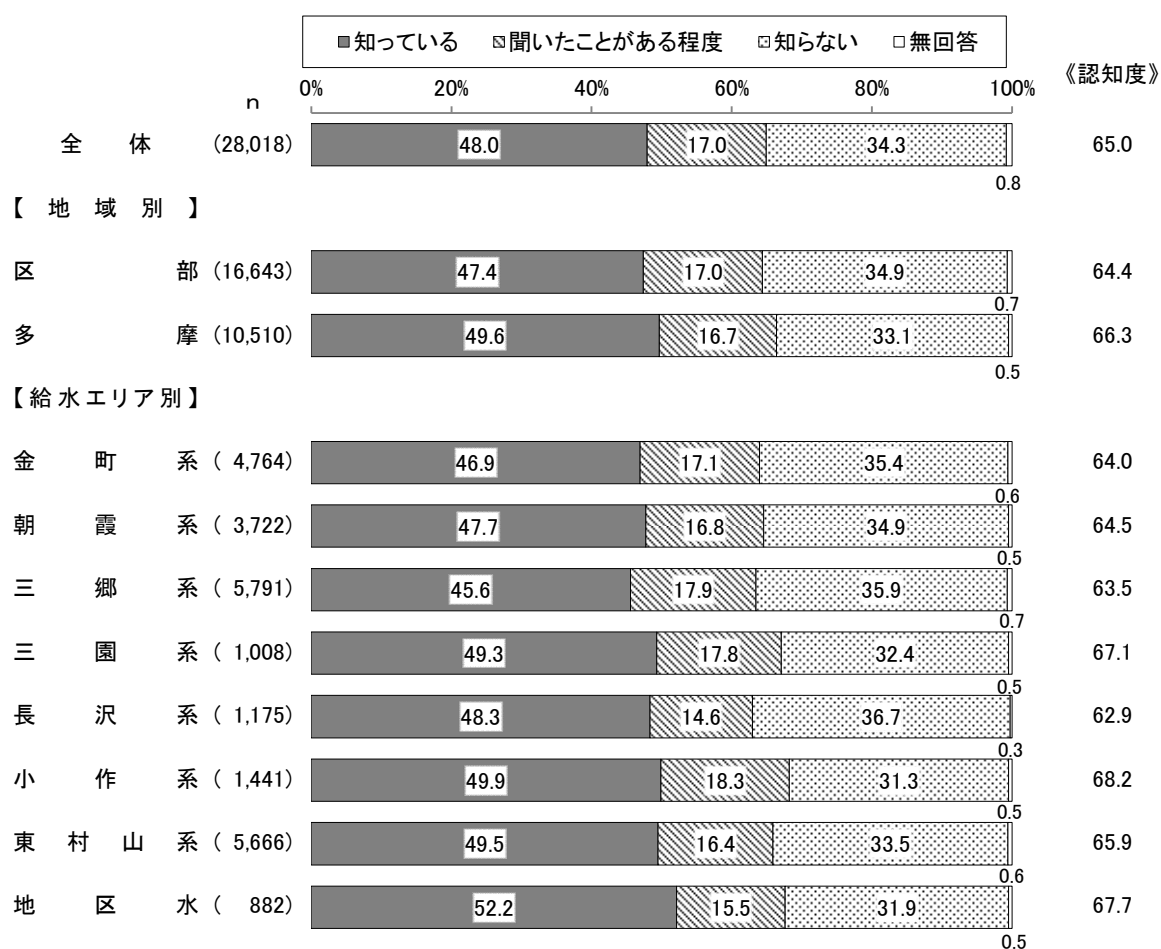


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（68.5%）の方が女性（62.7%）より5.8ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、60代（67.8%）で最も高く、次いで70歳以上（67.4%）、20代（66.0%）などとなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男性の70歳以上（69.9%）が最も高く、次いで、男性の60代（69.5%）となっている。

③ 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度（地域別、給水エリア別）

〈図表２－７－３〉

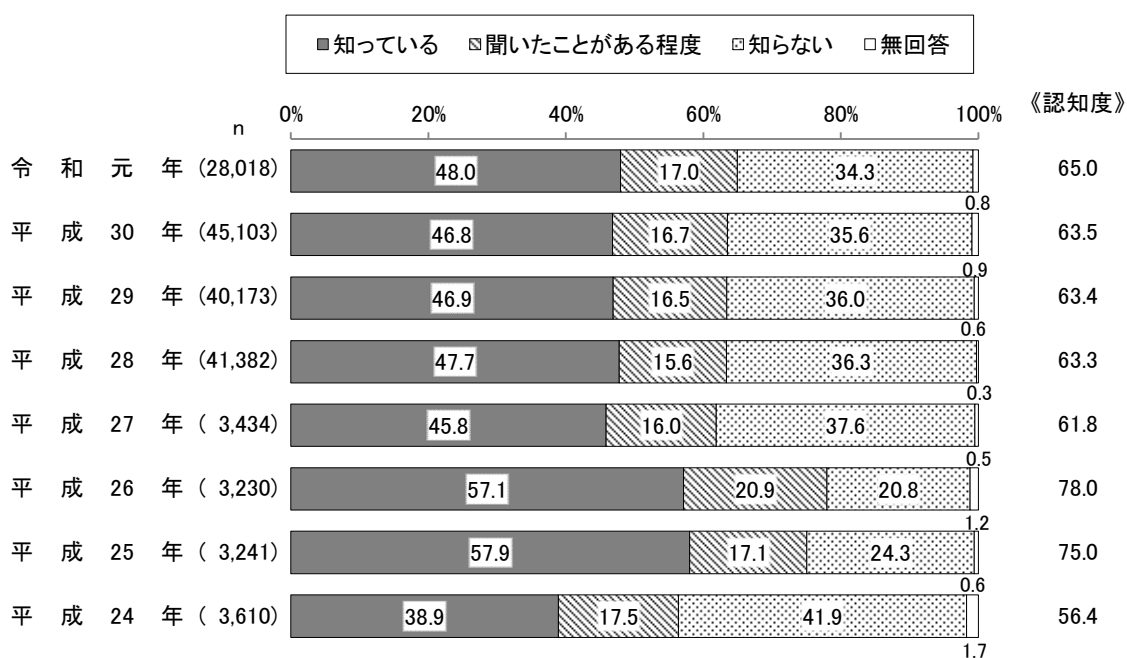


<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、小作系（68.2%）で最も高く、次いで地区水（67.7%）となっている。

④ 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度（時系列：全体）

〈図表 2-7-4〉



＜特徴＞

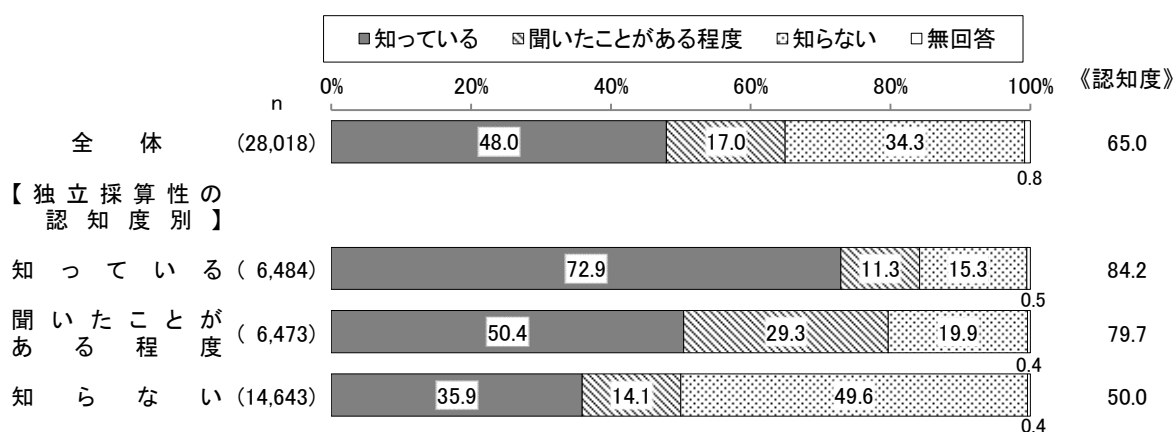
○前年度調査との比較では、《認知度》は、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》が6割強から6割台半ば近くの間で推移している。

〔詳細分析〕（分析の軸はA票の設問）

⑤ 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度（独立採算性の認知度別）

〈図表 2-7-5〉



＜特徴＞

○独立採算性の認知度別での従量料金の《認知度》は、「独立採算制を知っている」で84.2%と最も高く「独立採算制を聞いたことがある程度」で79.7%、「独立採算制を知らない」では50.0%となっている。

(2) 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度

問 水道局は、水道料金により独立採算性で事業運営していることをご存知ですか。

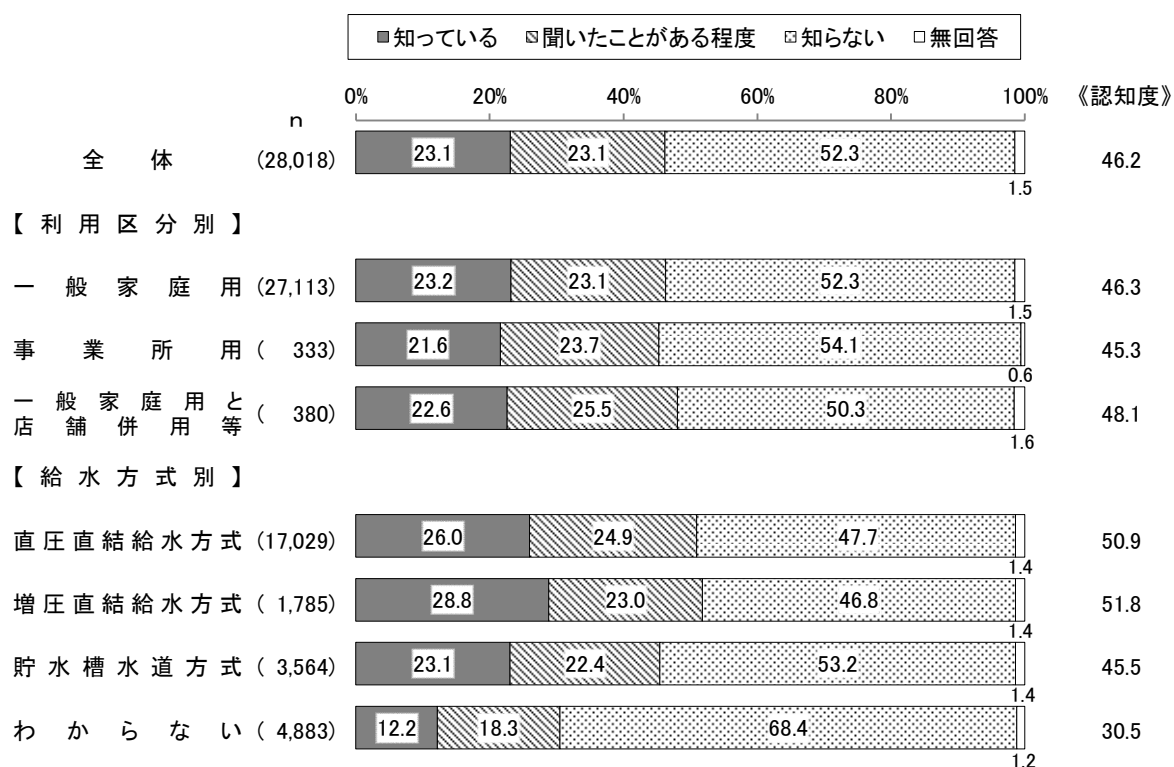
- 1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

〔A：問15、E：問16〕

〔調査結果〕

① 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度（利用区分別、給水方式別）

〈図表2-7-6〉



＜特徴＞

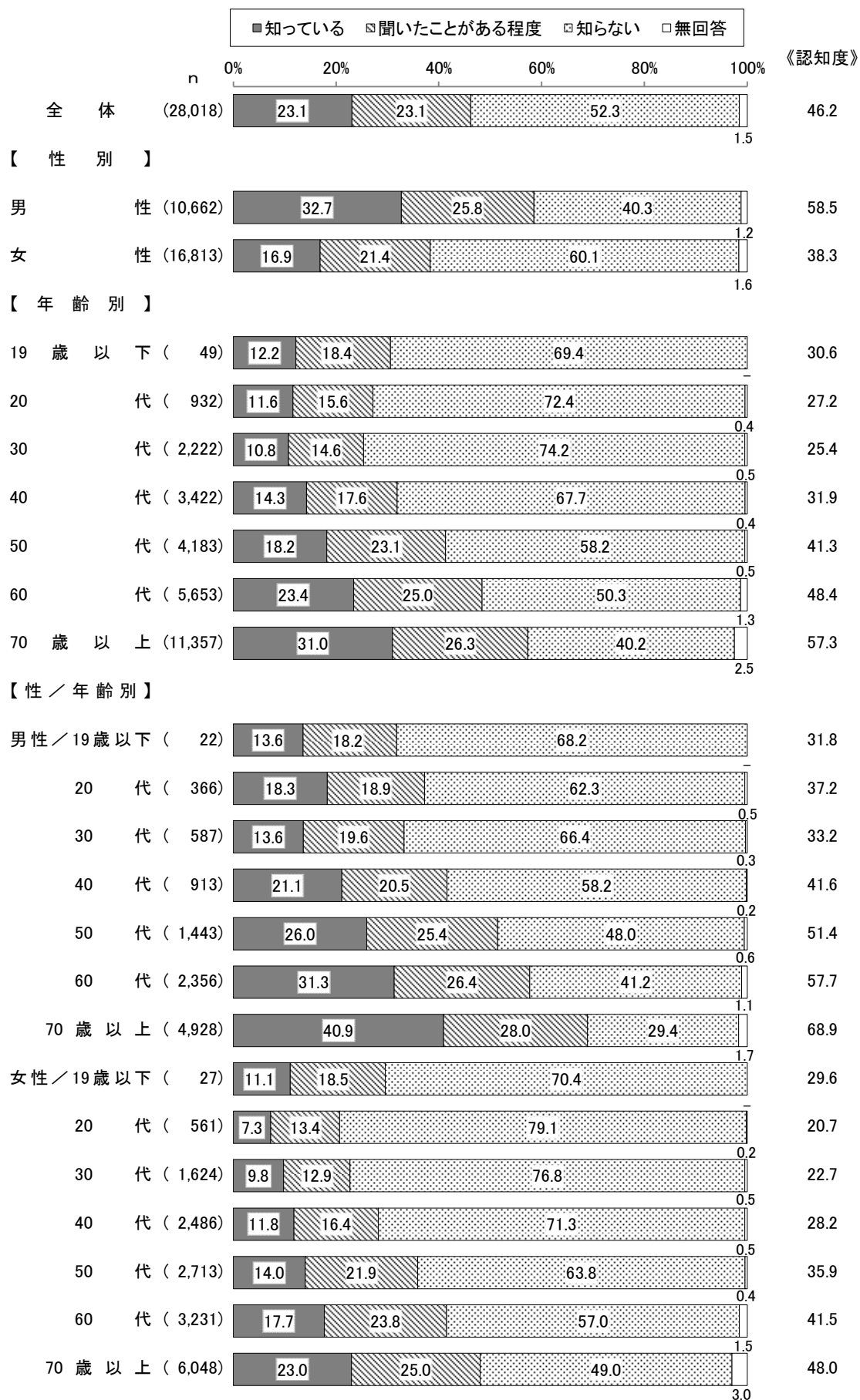
○全体でみると、「知らない」が52.3%で最も高くなっている。「知っている」(23.1%)と「聞いたことがある程度」(23.1%)を合わせた《認知度》は46.2%となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で48.1%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、増圧直結給水方式で51.8%と最も高くなっている。

② 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度（属性別）

〈図表２－７－７〉

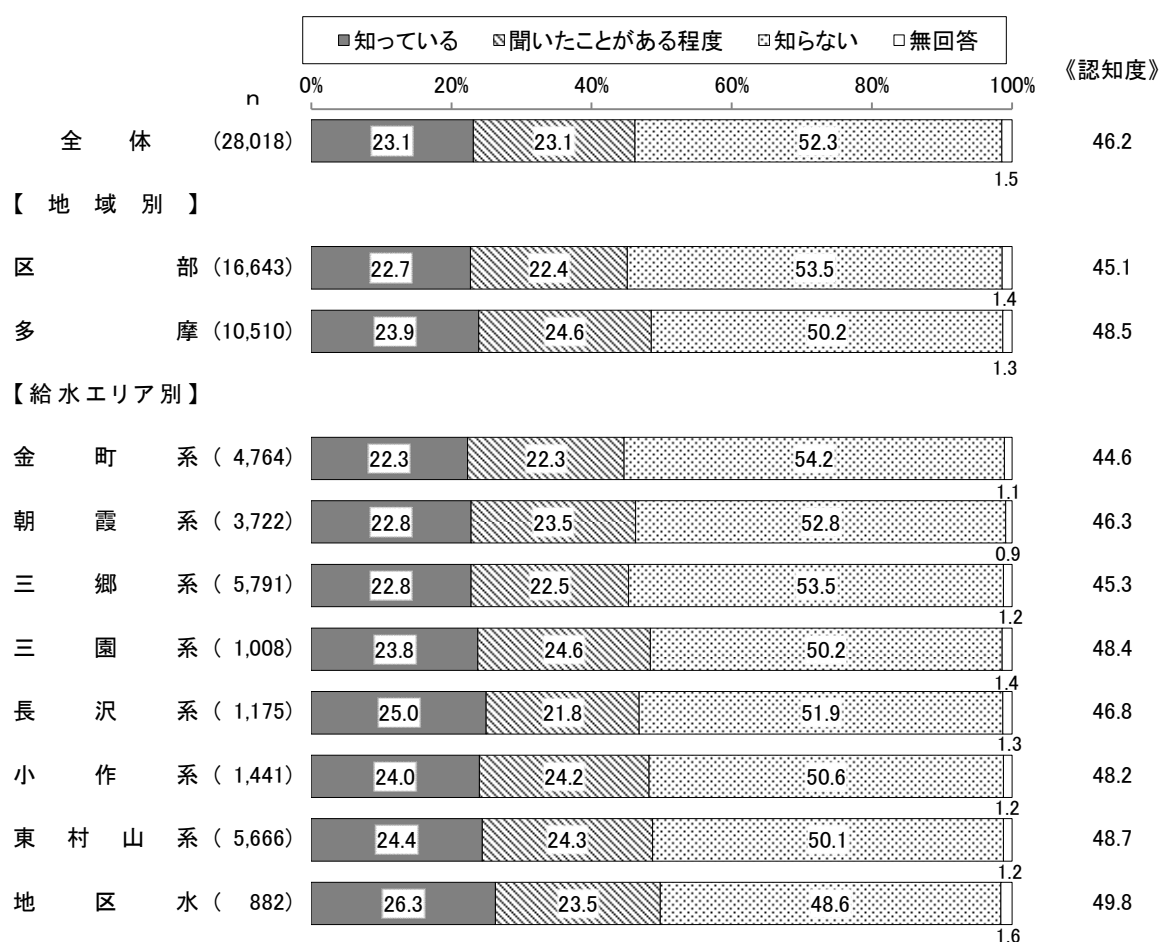


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（58.5%）の方が女性（38.3%）より20.2ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、30代（25.4%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるほど割合が高くなり、70歳以上（57.3%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男性の70歳以上が68.9%で最も高く、次いで男性の60代（57.7%）となっている。

③ 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度（地域別、給水エリア別）

〈図表2-7-8〉

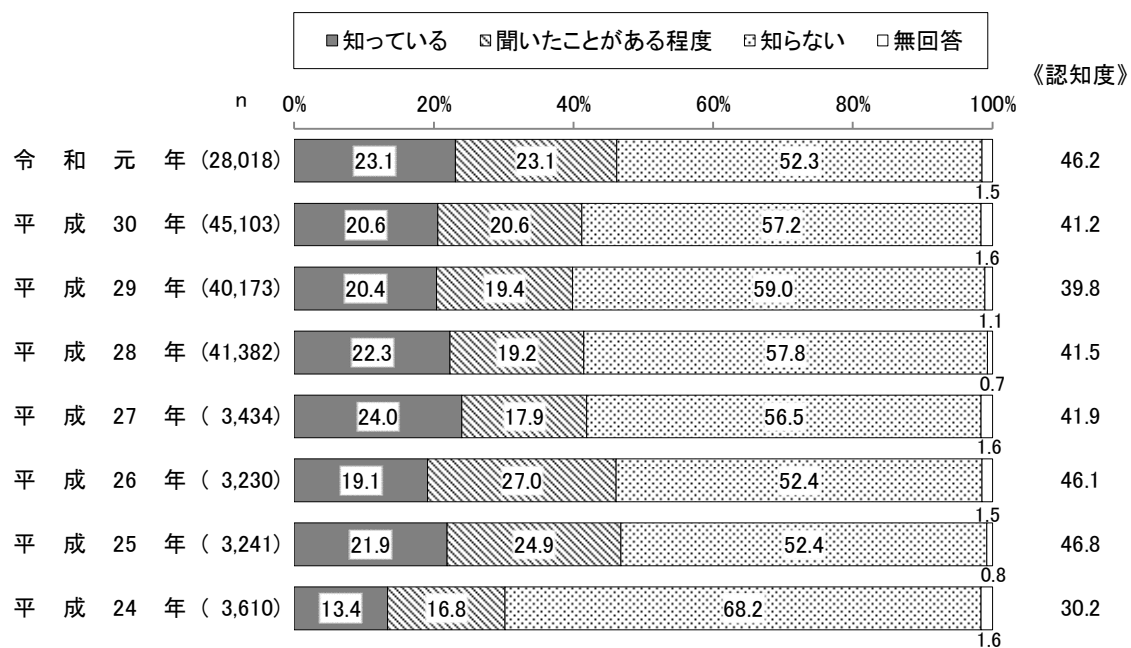


<特徴>

- 地域別では、《認知度》は、多摩（48.5%）の方が区部（45.1%）より3.4ポイント高くなっている。
- 給水エリア別では、《認知度》は、地区水が49.8%で最も高くなっている。

④ 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度（時系列：全体）

〈図表２－７－９〉



＜特徴＞

○前年度調査との比較では、《認知度》は5.0ポイント高くなっている。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向では、平成27年度（41.9％）から平成30年度（41.2％）までは特に大きな変化はなく、令和元年度で前述のとおり5.0ポイント増加している。

(3) 現在の水道料金のお支払い方法

問 現在の水道料金のお支払い方法をお教えてください。

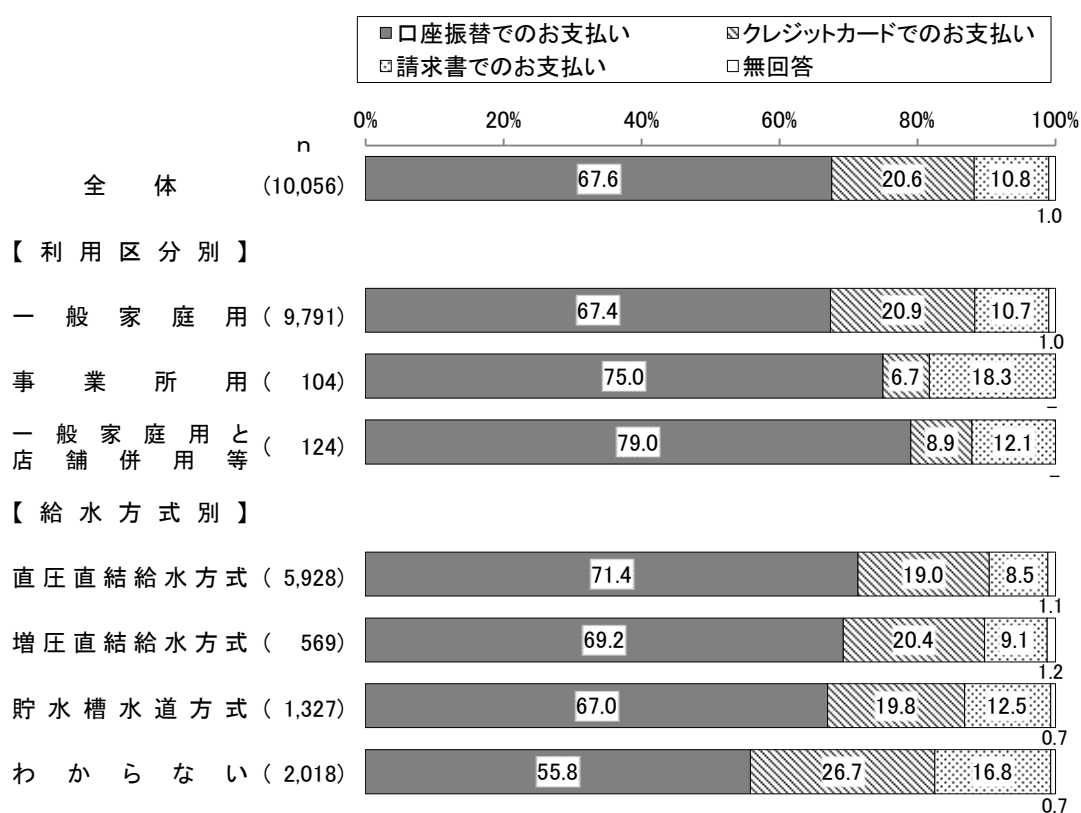
- 1) 口座振替でのお支払い 2) クレジットカードでのお支払い
3) 請求書でのお支払い

〔E：問13〕

〔調査結果〕

① 現在の水道料金のお支払い方法（利用区分別、給水方式別）

〈図表2-7-10〉

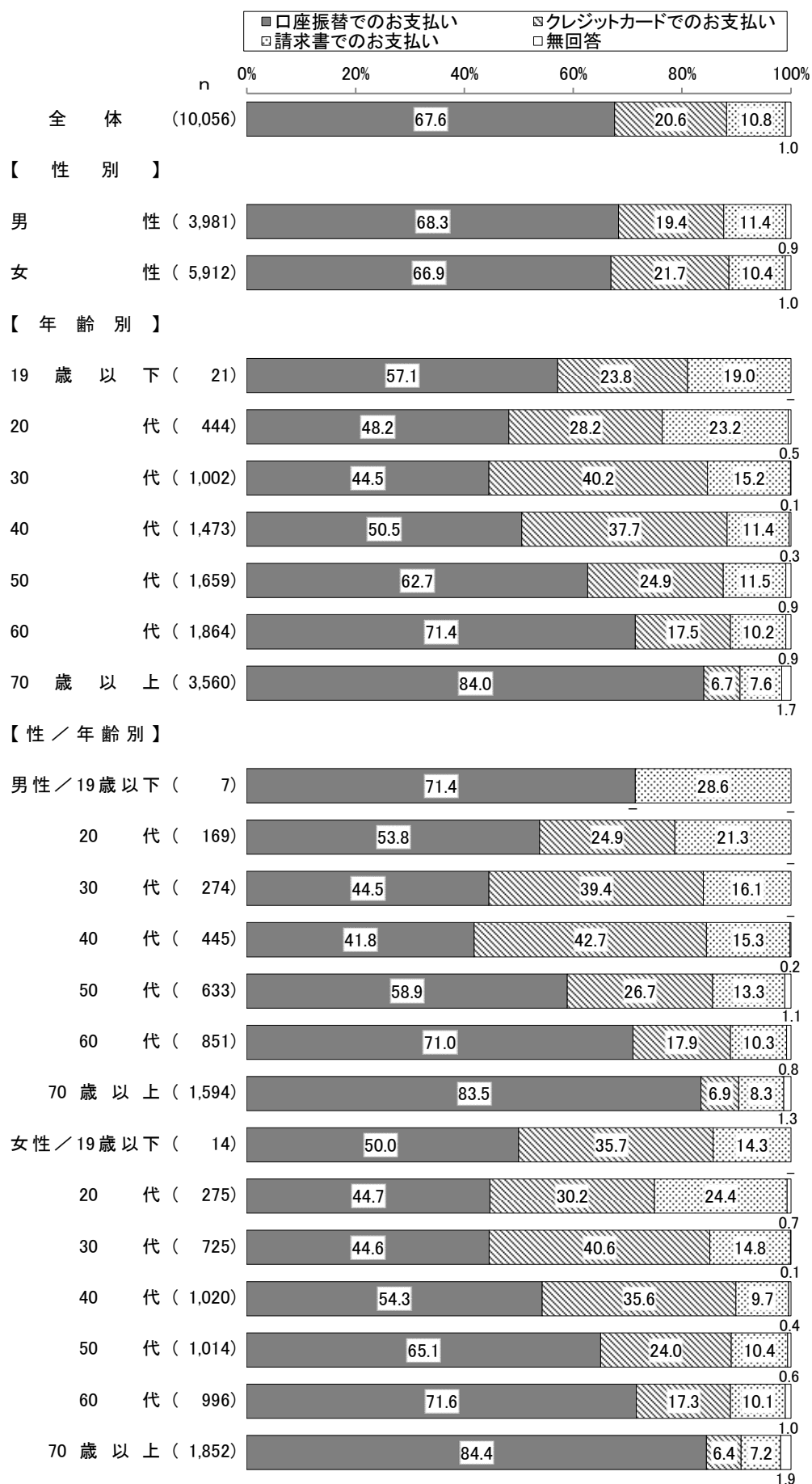


＜特徴＞

- 全体でみると、「口座振替でのお支払い」で67.6%と最も高く、次いで、「クレジットカードでのお支払い」が20.6%となっている。
- 利用区分別では、「口座振替でのお支払い」は、一般家庭用と店舗併用等で79.0%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「口座振替でのお支払い」は、直圧直結給水方式で71.4%と最も高くなっている。

② 現在の水道料金のお支払い方法（属性別）

〈図表 2-7-11〉



<特徴>

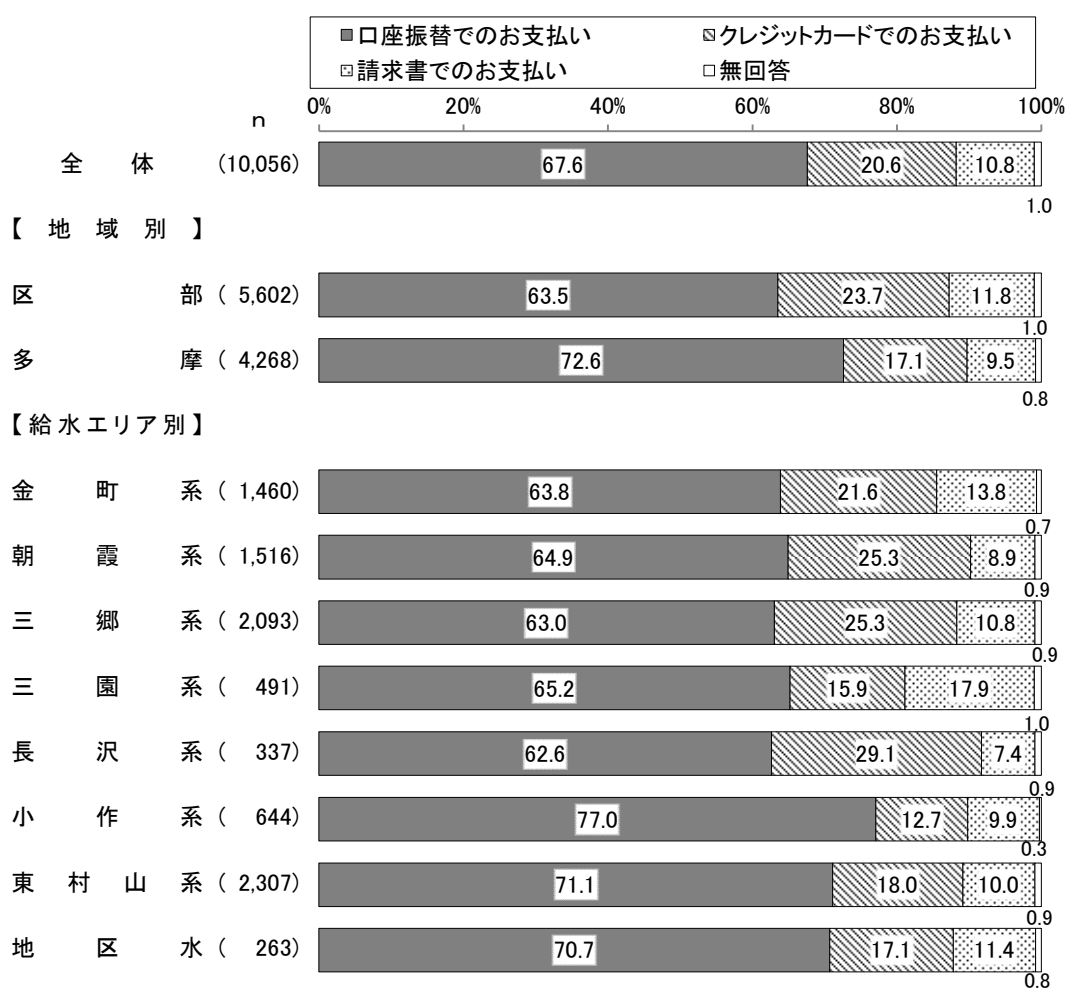
○性別では、特に大きな違いはみられない。

○年齢別では、「口座振替でのお支払い」は、30代（44.5%）で最も低く、70歳以上（84.0%）で最も高くなっている。逆に、「クレジットカードでのお支払い」は、70歳以上（6.7%）で最も引く、30代（40.2%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、「口座振替でのお支払い」は、女性の70歳以上（84.4%）で最も高く、次いで男性の70歳以上（83.5%）となっている。また、「クレジットカードでのお支払い」は、男性の40代（42.7%）で最も高く、次いで女性の30代（40.6%）となっている。

② 現在の水道料金のお支払い方法（地域別、給水エリア別）

〈図表2-7-12〉



<特徴>

○地域別では、「口座振替でのお支払い」は、多摩（72.6%）の方が区部（63.5%）より9.1ポイント高くなっている。

○給水エリア別では、「口座振替でのお支払い」は、小作系が77.0%で最も高く、「クレジットカードでのお支払い」は、長沢系が29.1%で最も高くなっている。